

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

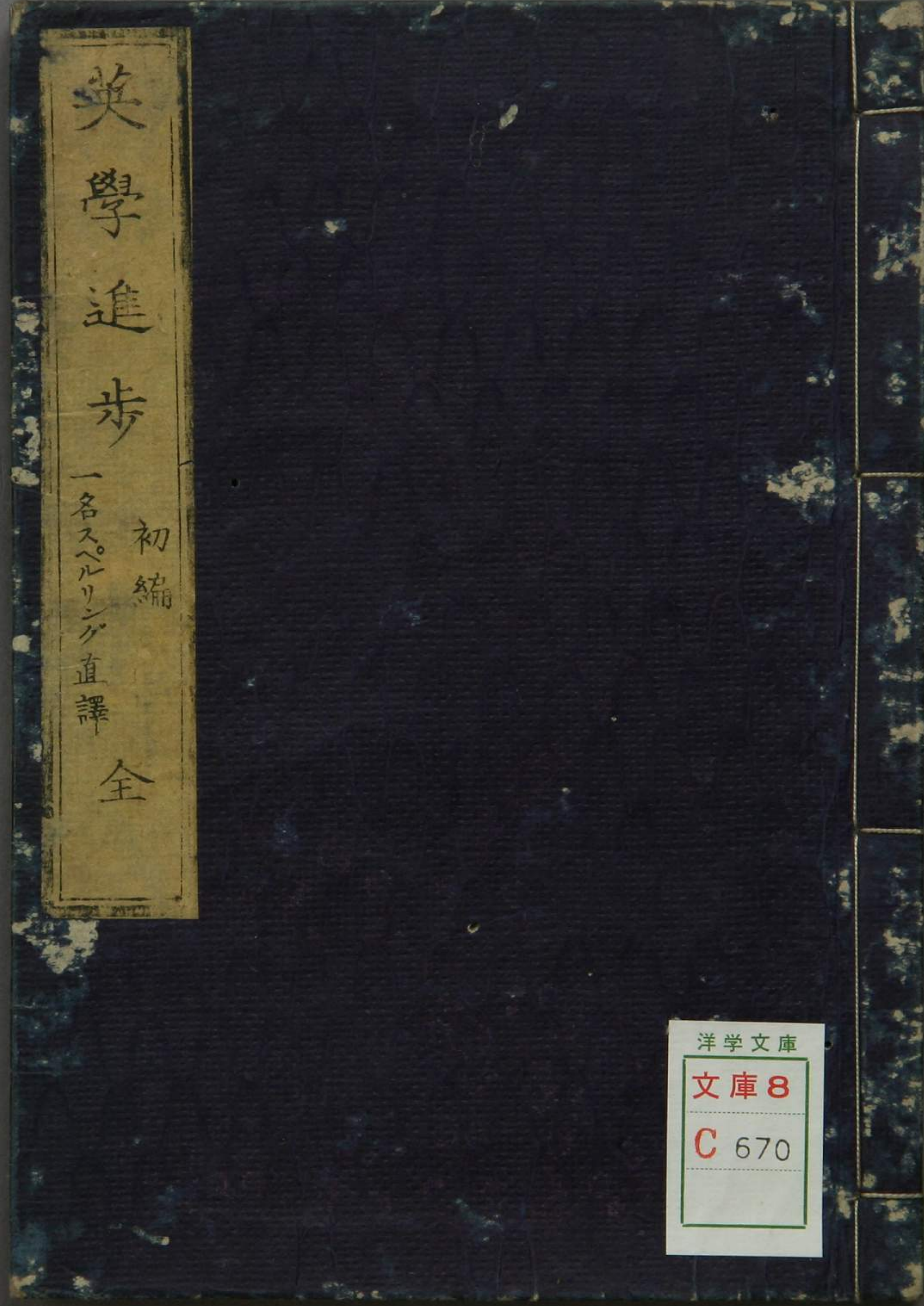
14

B

17

18

19



英學進歩

一名スヘルリング直譯
初編
全

洋学文庫

文庫8

C 670



S. Insaoka,

千
里



明 治 六 年 初 夏 新 鑄

伊東經兒郎譯

通 俗
英 學 進 步

一名スヘルリング直譯

京都書肆二書樓發兌

41- 8519

五
十
二
三
四

步



昭



五
十
二
三
四

龍山人



此のころは南へ行く陽宗神社の
 伴東氏と云ふものゝ學問の習ふに
 て川園の秋と云ふものをもよみて
 け冊のまゝ著し花とてさうと云ふ
 やしと云ふものもある西のつとむる
 かたもさうなればかゝりもさうな
 の山さうな花

平九秋

例言

一 允^{オヨソ}英^{エイ}學^{ガク}ニ 步^ホヲ 進^スント 欲^{ホツ}スル 者^{モノ}ハ 大^{ダイ}
 概^{ガイ}米^{アメリカ}國^{コク}ウエブストル氏^シノ。ス。ペルリングブックヲ
 以^{モツ}テ 初^{シヨ}步^ホトス。則^{スナチ}此^{コノ}書^{シヨ}ノ 簡^{カン}且^{カッ}便^ビニシテ。
 實^{ジツ}用^{ヨウ}ニ 供^{キヤウ}スルニ 足^タルヲ 以^{モツ}テナリ。故^{ユエ}
 ニ 今^イ此^{コノ}書^{シヨ}ノ 句^ク語^ゴヲ 直^{ジヨク}譯^{ヤク}シ。以^{モツ}テ 英^{エイ}學^{ガク}
 進^{シン}步^ホト 名^ナヅケ。童^{トウ}蒙^{モウ}此^{コノ}元^{ゲン}書^{シヨ}ヲ 學^{マナ}ブノ
 對^{タイ}讀^{ドク}ニ 備^{ソナ}へ。其^{ソノ}初^{シヨ}步^ホニ 便^ビセント 欲^{ホツ}ス

一 譯^{ヤク}語^ゴノ 傍^{カサラ}言^{ゲン}語^コノ 音^{オン}假^カ名^ナヲ 用^{モチ}ルモノ
 ハ。專^{モツ}ラ 對^{タイ}讀^{ドク}ノ 便^ビニ 隨^{シヨク}テナリ。然^{シカ}レ 凡^バ
 我^{ワガ}國^{コク}字^ジヲ 以^{モツ}テ。彼^{カノ}國^{コク}音^{オン}ヲ 抄^{ウツ}ス。素^{モト}ヨ
 リ 難^{カタ}シ。唯^{タビ}其^{ソノ}的^{テキ}語^ゴヲ 辨^{ベン}別^{ベツ}セシメンガ
 為^{タメ}ナリ
 一 允^{オヨソ}語^ゴ中^{チュウ}譯^{ヤク}シ 難^{ガタ}キモノハ 敢^アテ 譯^{ヤク}セズ。
 而^{シカフ}シテ 其^{ソノ}下^{シモ}ニ 註^{チュウ}釋^{シヤク}ヲ 加^{クハ}へ 以^{モツ}テ 其^{ソノ}意^イ
 ヲ 明^{アカ}ス

英學進法

一 往々章號有テ譯句ナキモノハ。元書
中其章綴字而已ニシテ。句語ナキヲ
以テナリ。唯順序ニ隨テ其章號ヲ舉
グル而已

一 譯中支那字ヲ用ヒ。傍假名字ヲ施ス

モノハツツチイイヤ等ノ假名
字ヲ讀誤ン^トヲ恐レテナリ。且童蒙

支那字ヲ識ルノ一助タラン^トヲ希
フ而已。素ヨリ識者ノ嘴牙ヲ勞セン
ト欲スルニアラズ。其缺漏ノ如キハ。

幸ニ之ヲ恕セヨ

明治六年二月

伊東經兒郎誌

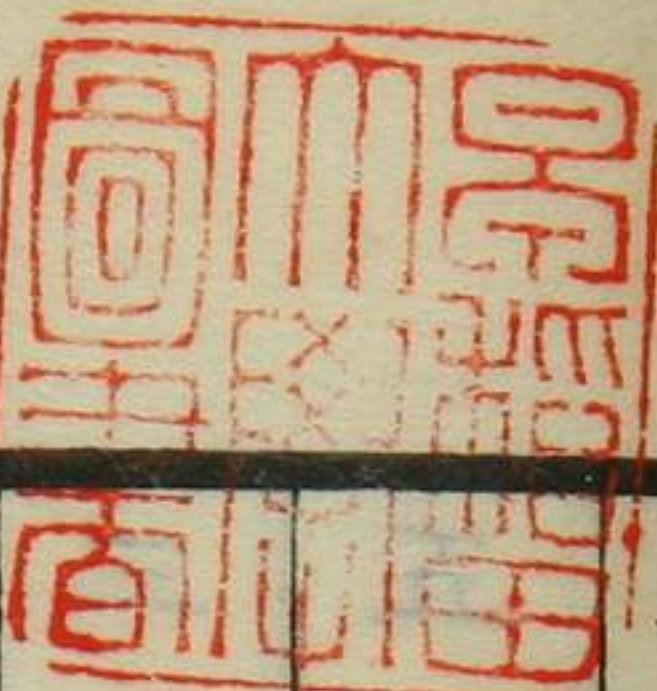
A
Spelling book.
by
Noah Webster, LL. D.

Translated.
by
G. P. To.
Saikio.
6th of meiji.

英學進歩初編

ウエブストル氏スペルリングブック直譯

味保氏回覧書



第一章

九	七	五	三	一
夫ハ有	我輩ニ	我ニ依テ	上レ	進メ
十	八	六	四	二
我ニ	行キナセ	我輩ハ行	剗牛	入来

英字進歩
カ編

十一 有ル可ク

十二 ソレニ於テ

十三 彼ハ居ルカ

十四 彼ハ居ル

十五 我ハ居ル

十六 我輩ニ於テ

第二章

一 彼ハ中ニ居ルカ

二 彼ハ中ニ居ル

三 彼ハ上ニ居ルカ

四 彼ハ上ニ居ル

五 進ミ為セ

六 我ハ進ミ為ス

七 夫ハ左様ニ有カ

八 夫ハ左様ニアル

九 夫ハ上ニ有ルカ

十 夫ハ上ニ有

十一 夫ハ中ニ有ルカ

十二 夫ハ中ニ有

第三章

一 彼ハ行可ク有カ

二 彼ハ行可ク有

三 我ハ行可ク有カ

四 我ハ行可ク有

五 夫ハ我輩ニ依テ有カ

六 夫ハ我輩ニ依テ有

七 若彼ガ中ニ有ナラバ

八 夫ニ上レ

九 我輩ハ夫ニ行ク

十 彼ハ我ニ依テアル

十一 左様ニ彼ハ上ニアル 士 左様ニ我ハ上ニアル

第四章

一 我ハ入来ル可ク有カ 二 我ハ入来ル可ク有ル

三 彼ハ入来ル可ク有カ 四 彼ハ入来ル可ク有ル

五 左様ニ彼ハ上ル可クアル 六 彼ハ我ニ依テ有ル可クアルカ

七 彼ハ我ニ依テ有ル可クアル 八 我ハ夫ニ依テ有ル可クアル

第五章

第六章

一 彼ハ我ニ依テ左様ニナス可クアルカ

二 彼ハ我ニ依テ左様ニナス可クアル

三 左様ニ我ハ中ニ有ル可ク有ル

四 彼ハ夫ニ依テ上ル可クアル

五 夫ハ我ニ依テ有ル可クアル

六 我ニ依テ夫ハ有ル可クアル

七 我ハ彼ガ有ル如ク有ル可クアル

八 彼ハ我が有ル如ク有ル可クアル

英字進歩 初編

第七章

第八章

第九章

一 彼女ハ老タル牝鶏ヲ飼ヒシ
カノヲチ オヒ メニトリ
ヘン オド

二 牝鶏ハ彼女ニ依テ飼ハレシ
メニトリ カノヲチ ヨツ カ
ヘン ホル バイ 三ツド ヲド

三 如何ニ牝鶏ハ走りアタフカヲ見ヨ
イカ メニトリ ハシ
ハウ ハウ ラン ケン

四 我ハ場ニ彼ニ遇シ
ワレ ニハ カレ アヒ
アイ ロイシム ド

五 牝牛ハ場ニ有リシ
メウレ ニハ ア
カウ ハウ

六 如何ニ太陽ハ熱クアルカヲ見ヨ
イカ タイヨウ アツ
ハウ ハウ ホツ イヌ

七 夫ハ今日熱クアル
ソレ コンニチアツ
イト ツデー ホツ イヌ

八 我ニ走りカ、ル犬ヲ見ヨ
ワレ ハシ イヌ
ミツツーラン ド

九 彼女ハ新シキ帽子ヲ持ツ
カノヲチ アタシ ボウシ
ニウ ニウ ヲ

十 彼女ハ寢床ノ上ニ彼女ノ帽子ヲ置キシ
カノヲチ ウヘ カノヲチ
シウ シウ ホル

十一 汝ハ我帽子ヲ取りナセシカ
ナシカ ワカボウシ
ニウ マイヘット ガツ

十二 我ハ帽子ヲ取りナサバリシ
ワレ ボウシ
アイ ヘット ガツ ノツ

十三 我帽子ハ折釘ノ上ニアル
ワカボウシ ヲシウ
マイヘット ペグ オ

五 彼女ハ行キ而シテ我帽子ヲ取り得ル
カノコエ ユ ソウ ツガボウシ ト ウ

六 我ハ行キ而シテ人ヲ見ルデアラフ
ワレ ユ ソウ ヒト ミ シー デ ア ラ フ

七 彼ハ鏡葉ノ箱ノ上ニ坐ル
カレ ブリキ ハコ ウニ スハ

第十章

第十一章

第十二章

一 新シキ紐ツキノ冠リモノ
アキラ ヒモ タツ カム

二 蜘蛛ノ巢
クモ ヲモ

三 彼ハ新シキ盤ヲ得タ
カレ アキラ タク

四 彼ハ悪キ童子デアラヌ
カレ アシ コドモ

五 少年ハ新シキ筆ヲ持シ
ワカモ アキラ フデモチ

六 彼ハ狂犬ヲ見シ
カレ キチカヒス

七 彼女ハ寢床ニ彼ヲ導シ
カノコエ チドコ カレ

八 我ハ箱ノ中ニ夫ヲ隠セシ
ワレ ハコ ウチ ソレ カク

九 彼ノ新シキ涎レ掛ケヲ掛ケヨ
カレ アキラ ヨダ カ

十 群ノ中ニ行キナスナ
ムレ ウチ ユ

十一 彼女ハ塵ヲ拭キ取リアタフ

十二 彼女ハ盤ノ中ニ我冠リモノヲ置ク

十三 彼ハ新シキ赤キ冠リモノヲ持シ

十四 我ハ我命ゼラル如クナシアタフ

第十三章

一 彼女ハ我為ニ新シキ袋ヲ持ツ

二 我ハ童子ヲ結付アタフ

三 大ナル犬ガ走リアタフ

四 彼ハ猪ヲ飼タ

五 人が彼ノ髪ヲ冠リアタフ

六 我小馬ハ場ニ走リアタフ

七 庶童ヲシテ寢床ニ上ラシメナスナ

八 我ハ我新シキ鉄葉ノ箱ニ杯ヲ納ル

九 我ハ墨拭ニテ我筆ノ墨ヲ拭キ取リアタフ

十 彼ハ我新シキ鉄葉ノ箱ニ赤キ壺ヲ納レ得ル

第十四章

第十五章

第十六章

一 エシハ我冠リモノヲ縁縫シアタフ
ワガカブ マイケツプ フチヌヒ

二 彼女ハ新シキ扇ヲ持ツ
カノヲシチ アタラ アキ

三 彼ハ彼ノ洞ニ隠レシ
カレ カレ ホラ カク

四 猪ハ彼ノ圍ニ有ル
ブタ カレ カコミ ア

五 我ハ十人ヲ見ル
ワシ ジウニン ミ

六 彼ハ銃炮ヲ持シ
カレ テツポウ モチ

七 我ハ走ル彼ヲ見シ
ワシ ハシル カレ ヒム ソウ

八 地圖ハ濕テアル
チヅ ヌシメツク イヌ

九 彼女ハ我傍ニ坐ルデアラフ
カノヲシチ ワカソバ スバ ウイル

十 彼ハ我筆ヲ切タ
カレ ワガシテ キツ

十一 我ハ食フ為ニ胡桃ヲ持シ
ワシ シラ タメ クルミ モチ

十二 汝ハ我帽子ヲ脱メアタフカ
ナシガ ワカボウシ キ

十三 夫ハ我檐ノ上ニアル
ソレ ワカマカシ ウヘ

十四 我ハ新シキ地圖ヲ持デアラフ
ワシ アタラ チヅ

英学進歩 力

五 蝙蝠ハ飛ビアタフ

六 猫ハ鼠ヲ食ヒアタフ

七 我ハ童子ニ遇ヒシ

八 彼ハ我箱ノ上ニ坐リシ

九 今太陽ハ没シテアル

十 我ハ今日六人ニ遇ヒシ

十一 十人ガ我ノ傍ニ坐リシ

十二 我ハ我鉄葉ノ箱ノ上ニ留針ヲ置キシ

十三 彼ヲシテ租税ヲ取ラシメヨ

第十七章

第十八章

第十九章

第二十章

第二十一章

第二十二章

第二十三章

第二十四章

第二十五章

一 火ハ木及ビ石炭ヲ燒デアラフ
ヒ キオヨ セキタン
ウイドモド コール

二 石炭及ビ木ハ火ニ為ルデアラフ
セキタンオヨ キ ヒ
コイル エンド ウイド

三 世界ハ一日ニ廻轉ス
セカイ イチニチ クハイツ
オルド デー イン

四 来而シテ我表衣ニ留メ針スル我ヲ助ケヨ
キテソウ ワカウハギ ト
カムエド アイフロック

五 濕タル地ノ上ニ坐リナスナ
レツク ウヘ ス
ダンゴ ダンゴ オン

六 我輩ハ鉄葉及ビ硝子ノ洋燈ニ油ヲ燒ク
ワレク ブリキオヨ ガラス
ランペン

七 不具ナル人ハ彼ノ不具ナル足ニテ越ヒク
フツダ ヒト カノ フツダ
レム ヒメ

八 我輩ハ麻及ビ苧ヨリ繩ヲ作ル
ワレク アサオヨ オ
ウイ アムエド

九 艦ナキ兒女ハ市中ニ戲ルデアラフ
シツク ムスメ レチウ タム
ガール

十 好キ兒女ハ綱ヲ飛越アタフ
ヨ ムスメ ツナ トビコ
ガール

十一 家鴨ハ肥タル鳥デアアル
アヒル コヘ トリ
ダック アンプ

十二 馬ハパンプニ於テ飲ム
ウマ ムマ オイ
ホルス

十三 留針ハ鋭ドキ尖ヲ持ツ
トメバネ スル サキ
ピン

十四 我輩ハ火箸ヲ以テ火ノ燼ヲ取リ上グ
ワレク ヒバシ モツ ヒ ヒ
ウイ トングズ ウイス

英字通解 初篇

十五 善キ童子等及ビ兒女等ハ善キ行ヒスルデアラフ

十六 試験ハ決斷ノ試ミデアアル

十七 彼ハ急デ来シ而シテ彼ノ書物ヲ忘レシ

十八 人が穀物ヲ挫キ而シテ粉ヲ盪フ

十九 我輩ハ正直ニ而シテ賢ナル人ヲ愛ス

二十 風ハ我輩ノ眼ニ塵埃ヲ吹込デアラフ

廿一 童子等ハ鳥ノ巢ヲ盗ムヲ愛ス

廿二 我輩ヲシテ寢床ノ上ニ休マシメ而シテ眠ラシメヨ

モシ我輩ガアタフナラバ

廿三 錫及ビ黃銅ハ大氣ノ濕ツテ有ル片ニ錆ルデアラフ

第二十六章

一 麵師ハ麴及ビ菓子ヲ焼ク

二 我ハ陰アル森ノ中ニ遊ブヲ好ム

三 或魚ハ甚ダ骨多クアル

四 我ハ如何ニ讀ム可キカヲ我ニ示ス所ノ若キ婦人ヲ

愛ス

五 ポニーハ甚ハナハダ小チイサキ馬ウマデアアル

六 我輩ワカウチハ火ヒ杵カキヲ以モッテ火ヒヲ挟ハカム

七 最モットモ好ヨキ紙カミハ麻アサノ古フル切キレヨリ造コレラル、

八 坑マムシハ惡アレキ蛇ヘビデアアル而ソウシテソレラハ人ヒトヲ啗カム

九 關牛ケンウハ首アカガ着クヲ食クラフヲ愛アイス

十 鬱ウツ金香キンカウハ花ハナ園ヅノニ生オヒテ甚ハナダ奇キ麗レイデアアル

十一 日ヒ時ドケイ計ケイハ日ヒノ時トキヲ示シメス

十二 シーダシルノ樹キハ林リン中チュウニ生ハル 類シ樹ダルハ松マツノ

十三 覆フキ盆イ子ゴハ刺トゲノ上ウヘニ生ナル

十四 林リン擒ゴ酒シュハ林リン擒ゴヨリ造コレラル、

十五 虎トラハ人ヒトヲ殺コロシ而ソウシテ喰クラフデアアラフ

十六 草クサ搔カキ者カキハ枯カレ草クサヲ搔カキアタフ

十七 バイエルハ小チイサキ瓶ビンデアアル

十八 ジヤイエントハ甚ハナハタ強ツヨク長タケ高タカキ人ヒトデアアル

十九 聖セイ經キヤウハ神カミノ書シヨデアアル

第廿七章

第二十八章

第二十九章

一 エンハ亭ヲ紡ギアタフ

二 シエツドハ泳ギアタフ 魚ノ類

三 彼ハ我ヲ見ルコトヲ喜ンデアリシ

四 童子ハ橋ノ上ニ乘リアタフ

五 杏ハ萼ニ依テ掛ルデアラフ

六 童子ハ太鼓ヲ持シ

七 彼ハ一杯酒モ飲デハナラヌ

八 彼ハ鼠ニ向テ涼ヲ掛シ

九 船ハ海ニ行ク

十 童子ハ打還リアタフ

十一 人カ珠ヲ射ル

十二 我ハ鍋ノ中ノ乳汁ヲ泡トル彼女ヲ見シ

第三十章

第三十一章

一 竊ナルコトハ盗ムコトデアアル我輩ハ盗ンデハナラヌ
二 鳥ハ歌フ為ニ枝ノ上ニトマル

第三十二章

一 強飲ハ人ヲ損ズルデアラフ

二 剛キ売ハ鮑及ビ牡蠣ヲ包ム

三 人ハ普通ノ大氣ヨリ輕クアル所ノ瓦斯ヲ以テ氣球
ヲ脹ラス

四 諸先生ハ互ニ丁寧ナル彼等ノ門生ヲ見ルコト好ム
レ子バナラヌ所ノ

五 懶惰ナル人ハ屢明日マデ事ヲ猶豫ス夫ハ今日ナサ
六 善人ハ神ノ法ニ從フ

七 我ハ星宿天ヲ測量スルコトヲ愛ス

八 鈍ナル兒女ハ彼等ノ物ヲ置キ忘ル

九 路賊ハ彼ヲ奪グ為ニ旅人ヲ待伏ス

十 捕鳥者ハ彼ノ網ニマデ鳥ヲ誘フ

十一 猫ハ鼠及ビ鼯ヲ貪リ食フ

十三 巧ナル網渡リハ飛ビ越ヘ而シテ飛ビ上リ而シテ猿

ノ如ク左様ニ多クノ業ヲナス

十三 賢者ハ彼ラノ邊リノ總テノ人ニ善ヲナスニ於テ

彼等ノ時ヲ用ユル

十四 戦争ノ時ニ於テ艦ハ護衛ヲ持ツ

十五 王ハ高キ名譽ノ人デアアル其人ハ金冠ヲ冠ル為ニ戦

ヒ而シテ争フ所ノ

十六 神ハ天及ビ地ヲ六日ノ中ニ創造シ而シテ造ラレシ

トコロノ總テノモノハ甚ダ善クアリシ

十七 神ハ惡人ヲ損フデアラフ

第三十三章

第三十四章

第三十五章

一 草木ハ種ヨリ地ニ生ル

二 人ハ彼ノ斧ヲ以テ木ヲ伐トス

三 鰻ハ小河ニ泳グ

四 銳スルドキ器械キカイハ鋼鉄ハガネヨリ造ツクラル、

五 日ヒハ毎日マイニチ出沒シツボツスルコトニ見ミユル

六 斧オノハ銳スルドキ齒ハヲ持モチ而シテ能ヨクク切キレル

七 春ハルニ於オイテ草クサハ緑キナリニ而シテ鮮アサキカニ見ミユル

八 我ワレハ満マン月ゲツヲ見ミタ

九 王ワウ及オヨビ女ニヨ王ワウハ金キンノ冠カ冠ヲ冠カ冠ル

十 我ワレハ彼カレノ頰ホウニ於オイテ小兒アカゴヲ吸スデアラフ

十一 我輩ワレハ一週イツシツノ第一日ダイイチニチニ於オイテ寺テラニ行ユク

十二 人ヒトハ我輩ワレノ深フカキ井イノ廻マリニ井筒イヅツヲ置オク

十三 羊毛ヤウモウハ羊ヒツジヲ暖アタカニナス 為ナス 羊毛ヤウモウ羊ヒツジヲシテ暖アタカニ

十四 人ヒトハ小舎コヤノ中ウチニ彼等カレラノ猪ブタヲ圍カコフ 圍カコハ籠カゴノ義カギ

十五 我輩ワレハ寢床シドコロニ卧フシ而シテ眠ネムル

十六 新アタラシキ幕ハクキハ清淨セイジヨウニ掃ハク

十七 野鹿ノジカハ林中リンチウニ走ハシル

十八 赤大根アカダイコンハ食クフコトニ好ヨククアル

十九 若我モレワレガ市中シチウニ彼カレニ出會デアナラハ我ワレハ深シ切セツナル容ヨウヲ以モツテ

テ彼ヲ接待ヒ而シテ我新シキ書物ヲ彼ニ見セルデアラフ
スヒム グリット モド マイニウ ブック ヒム 言 ウイル

第三十六章

第三十七章

第三十八章

一 石竹花ノ香ハ快クアル
セキチク 永ヒ ココロ ピンク フラタール スイト イズ

第三十九章

第四十章

第四十一章

第四十二章

第四十三章

一 スキフハ小サキ曹艇デアアル
チイ コギフ子 スモル ランボット イズ

二 巖ハ高ク險シキ岩デアアル
イハホ タカ ケス イハ イズ

三 汝ノ悪キ戯レヲ休ヨ
ナンガ アレ タワム ヤメ リズ

四 多ク嗅ギ烟草ヲ取リナスナ
オカ カ タバコ ト テーキ

五 船ハ高キ桅ヲ持ツ
フネ タカ ホシラ モ

六 我ハ農家ヲ廻リテ好キ石壁ヲ見ルヲ好ム
アイ ノカ マワ ヨ セキハイ ミル ヲ コム

英字道安 不糸

不糸

七 梨ノ樹ハ梨ノ種ヨリ生ル

八 善キ童子ハ好ク綴ルヲ及ビ讀ムヲ勤ムルデアラフ

九 汝ノ書物ヲ失ヒ又ハ賣ナスナ

十 善キ家兒ハ彼ノ父ヲ助ルデアラフ

十一 我ハ新シキ瓦造リノ家ニ住ム

十二 若汝が乾タル蠶豆及ビ豌豆ヲ烹ルナラバソレラハ

脹レルデアラフ

十三 家鴨ハ廣ク扁タキ嘴ヲ持ツ

十四 乳汁ノ一コルトハ二パイントノ杯ヲ滿スデアラフ

十五 一パイントノ杯ハ四ジルズヲ保ツデアラフ

十六 我ハ丘ヲ流下ル細流ヲ見シ

十七 小河ハ水車ヲ廻スデアラフ

十八 牡牛ハ強キ頭ヲ持ツ

十九 霜ハ樹上ノ葉ヲ枯スデアラフ

二十 鶏が鳴片ニ彼ハ枯タル高キ聲ヲナス

世 猫ハ鼠及ビ鼠ヲ殺シ而シテ喰フデアラフ

世 豚ハ滓及ビ穀物ニ於テ食フ

世 頂骨ハ頭ノ頂上ニ於テノ骨デアアル

世 猫ハ汝ノ襜ノ上ニ坐シ而シテゴゴ言フヲ好ム

世 鷄ハ魚ニ於テ生活スル所ノ大ナル海鳥デアアル

世 或ルシバハシエツドノ如ク左様ニ大キクアル

世 黄銅ハ亞鉛及ビ銅ヨリ造ラル

世 雨ハ草ヲシテ生長セシムルデアアラフ

世 汝ハ汝ノ衣服ヲ清淨ニ而シテ奇麗ニ保多子バナラヌ

世 月ハ日ヨリ甚ダ小サクアル

世 我ハ晝飯ニ向テ豌豆ノ加飯ヲ得ルヲ試ルデアアラフ

世 我ヲシテ行テ而シテ其愛ラレキ嬰兒ヲ吸シメヨ

世 苔ハ林中ノ樹上ニ生ル

世 火ハ鏢ヲ銷スデアアラフ而シテ金ハ流去リ而シテ滓

世 ヲ殘スデアアラフ

世 神ハ彼ノ好ヲナストコロソレヲ惠ムデアアラフ

英字通考 糸

第四十四章

一 綿天鷲絨ハ手觸ニ甚ダ柔デアアル
メンビロドド テザリ ハチハ ヤハラカ
コットンベズット スイール ヲベア アト イズ

二 兎ハ夫ラガ早ク聞キ而シテ黑夜ニ於テ能ク見得ル
ウキギ ソレ ハヤ キ ソウ コクヤ オイ ヨク見
ラビツ ベー クイッキ ヒア エンド ダーク イン ウル シイメ

三 処ノ大ナル耳及ビ目ヲ持ツ
トコロ オイ ミ、オヨ ノ モ
ザット ラーシ イル エンド アイス ハン

四 我輩ハ我輩ヲ訪フ我輩ノ朋友ヲ持ツコトヲ好ム
ワレク ワレク トム トモ
ウイ アズ ビット アール フレンズ ハン ツイ ライキ

五 客ハ彼等ノ者省ヲ餘リ長クナシテハナラヌ
キヤク カレラ マイ アマ ナカ
ビラリス ジニア ビット ツイ メイキ シキド ノト

六 銀ノ匙ハ鍍ルコトニ属シテアラヌ
ギン サビ サビ
シカール スズ アト アト アール ノト

七 七 セントハ銅ヨリ造ラル、而シテドルラルハ銀ヨリ造ヘ
コウビキ ハタラ アシ コフ
シカール スズ アト アト アール ノト

八 米國ノ錢名ナリセントハ銅錢ニシテドルラルノ百分一ニアタリ
ラル、 ドルラルハ銀錢ニシテ百セントニ當ル次ノ二句ニ参照シテ知ルベシ
アール

九 一ドルラルハ一百セントノ價デアアル
イッポギヤ イ
オハンセント

十 一ドルラルハ我輩ノ最大ナル銀錢デアアル而シテセントハ
ワレク サイダイ
アール ラーシスト

十一 最大ナル銅錢デアアル
サイダイ ドウセン
ライシスト

十二 銀及ビ銅ノ鑛ハ地ヨリ掘出サル、而シテ甚ダ熱キ
ギン オヨ アカチ アカチ
シルバート コッパル オルマ グラウド ナナ ガガアトアール エンド

火ニ於テ銷サルハ
ヒ オイ トカ
フヤ イン メルテット

カニ

一

士 絹商ハ絹ニ於テ商フトコロノ人デアアル

士 洞ハ洞穴乃チ洞デアアル

第四十五章

第四十六章

一 剃刀ハ鋭ドキ齒ヲ持ツ

二 レッジハ石ノ大ナル重リ乃塊リデアアル

三 農夫ハ楸ヲ以テ横木ヲ割ル

四 裁判役ハ惡人デ有テハナラヌ

五 戸ハ蝶番ニ於テ懸ツテアル

六 樺ノ木ハ熱キ火ト作ルデアラフ

七 若汝餘リ熱火ニ近ツクナラバソレガ汝ノ表衣ヲ燒

キ或ハ焦シアタフ

八 兵卒ハ太鼓ノ響ニ進ミ行ク

九 六人ノ童子ガ一ツノ長キ腰掛ノ上ニ坐リアタフ

十 鳥ハ樹上ヲ枝ヨリ枝ニ飛ビ而シテ枝ニ治定トソレ

ラノ爪ヲ握ル

士 人人親指ノ第一ノ節ハ長サ一イチデアアル 尺度ノ名ニシテ我

八分三厘六毛
九弗余ニ當ル

士 我ハ我甘キ葡萄ノ一房ヲ持ツコトヲ欲ス

士 猫ハ鼠及ビ鼠ヲ捕テ多ク而シテ餘ハ狐ヲ捕ルデアラフ

士 牝鷄ハ卵ノ巢ノ上ニ坐リ而シテ雛ヲ及スデアラフ

士 貫ノ木ハ戸ヲ閉ゲテ保ツ

士 我輩ハ引火奴ヲ以テ洋燈ヲ點シアタフ

士 敢テ童子ヨリ書物ヲ奪フ莫レ

士 頑ナル猫ハ彼女ノ鋭ドキ爪ヲ以テ搔キ裂テアラフ

第四十七章

一 賢者ハ太陽ト共ニ起ク或ハソレノ前ニ起ルデアラフ

二 太陽ハ日ノ終リニ於テ没スルデアラフ

三 善キ童子等ハ叮嚀ニ彼等ノ書ヲ用ニルデアラフ

四 人が手綱ヲ以テ馬ヲ導キアタフ

五 地球ハ全ク圓クハアラヌ夫ハ東ヨリ西ニ夫ガ有ル

如ク北ヨリ南ニ左様ニ長クハアラヌ

英字進歩

八 小麦ノ粉ハ好キ麵ニ成ルデアラフ

九 橙ハ酸キ菓デアアル

十 豚ハ地ヲ堀回ス為ニ長キ鼻ヲ持ツ

十一 トラウトハ食フコト好キ魚デアアル

十二 閻牛ハ強キ馴レタル獸デアアル

十三 鳥ハ氣中ニ翔ル為ニ羽翼ヲ持ツ

十四 狼ハ夜林中ニ嗥ル

十五 犬ハ嗥ミ而シテ吠ルデアアラフ

十六 寒霜ハ木葉ヲ深黄ニ變へ而シテソレヲラヨシテ地上ニ落シム

ニ落シム

十七 雨ハ地ヲシテ濕ハシムルデアアラフ

十八 汝ハ炭火ノ上ニ牛肉ヲ炙リアタフ

十九 我輩ハ關節ニ於テ我輩ノ四肢ヲ動かス

二十 豊饒ヲ持ツ所ノ土地ハ穀物及ビ草ノ大ナル實ヲ持

デアアラフ

廿一 留針ハ頭及ビ尖ヲ持ツ

英字進歩

廿一

廿三 タイム八十セントニ價スル小錢セウセンデアル
小ナル銀錢ニシテドルノ十
分一ナリ乃チ十セントニ當ル

廿二 人ガ胡弓ヲ弄ブ
ヒト コキウ モモリ

廿一 大砲ハ高キ聲ヲナス
タイホウ タカ コエ

廿 人ガ綱ヲ以テ船ノ荷倉ヨリ荷物ヲ引揚グ
ヒト ツチ モツ フネ ニガラ ニモツ ヒキア

廿 木屋ノ材ハ柱及ビ桶ニ依テ支ヘラル、此等ハ構造
モクオウ ガイ ハシラオウ タルキ ヨツ サ、 コシラ コウザク

十九 ノ部分デアアル
ブ部分デアアル

十八 神ハ人及ビ獸ノ為ニ菓ヲ生ズルコトニ土地ヲ作ス
カミ ヒトオヨ ケダマ タメ タメタ シヤ トチ

十七 球ハ玉ノ如ク殆ド圓クアル
キウ タマ コト ホトシ マロ

十六 陰雲ハ地上ニ其雨ヲ洒ギ而シテ草ヲ生テ生長セシ
インウン ナダウ ツンアメ ソウク ソウカ セイキキ

ムルデアアラフ

第五十章

第五十一章

一 纜ノ人ハ四輪車ヲ持ツコトニ許シアタフ
ワツカ ヒト シリンキ タモ キクア ツー

第五十二章

第五十三章

一 風ガ強ク吹ク片ニ海ガ號ブ而シテ其波ハ高ク走ル
カゼ ツヨク フク ハクニ ウミ ガサケ ソウカ

二 我輩ハ六月ノ月ニ青キ豆ヲ持ツ

三 誰モ一杯酒ニ向テ好キ辞退ヲナシアタハヌ

四 兒女等ハ彼ラノ頸ニ纏フタメニ奇麗ナル珠ヲ好デ

居ル

五 兒女及ビ童子ハ讀書及ビ綴字ヲ學バ子バナラヌ

六 人が鉄搭ヲ以テ枯草ヲ積ム

七 柏ノ一駄ハ松ノ一駄ヨリモ多ク有價ノモノデアアル

八 蟾ハ蛙ノ如ク飛デアラフ

九 鋸車ハ板ニマデ材木ヲヒクテアラフ

十 匏ハ南瓜ノ如ク蔓ニ生ル

十一 汝ハ聾及ビ啞ノ童子ニ話スコトヲ教ヘアタハヌ

十二 シムヲ飲ム所ノ人ハ直ニ麵ノ一片ヲ要シ得ル

取キ焼酎ノ類酒ナリ

十三 海ノ波ハ濱ニ打上ル

十四 曝者ハ布ヲ曝ス而シテ如斯シテツレコ白クナス

十五 粉挫者ハ粉ニマデ穀物ヲ挫ク

六

犢ノ肉ハウイールト名ヅケラル、

七

林擒ハ桃ヨリ甚ダ沢山ニアル

八

説法者ハ聖傳ヲ説法スルコトデアアル

九

先生等ハ彼等ノ門生ヲ教ル而シテ門生ヲハ學ブ

十

比目魚ハ短カク厚ク扁タキ魚デアアル

十一

人ハ彼ラガ世デアアル前ニ彼ラノ生長ヲ得ル

十二

鳥ノ嘴ハ其嘴乃チ其嘴ノ端デアアル

十三

グリーンランドハ荒涼タル地デアアル
極北ニシテ北極ニ至ル地極寒ニシテ暑ナシ

第五十四章

一

本草學ハ草木ノ學問デアアル

二

挽歌ハ葬禮ノ歌デアアル

三

プロジジーハ甚ダ驚クベキ或ル物デアアル
奇怪物

四

画像ハ人ノ形乃チ姿デアアル

五

フランスエミーハ神ヲ賤シメ待フコトデアアル

六

リタニーハ神ニ祈禱ノ正シキ勤メデアアル

七

竊盜ハ賊デアアル而シテ罪セラルコトハ至當デアアル

八 ダイザイ 大罪ハ死ヲ以テ罰セラレ得ル処ノ罪デアアル

九 ホウロク 奉祿ハ勤メニ向テ定メラレタル年々ノ給金デアアル

十 カウサク 耕作ハ土地ノ耕シデアアル

十一 ワレク 我輩ハ音ノ合節ヲ以テ樂ンデ居ル

十二 グロセリ ハ癡奔シタル語ヲ説明ス為ニ用ヒラル、
レタル 古語ヲ旁訓
シタル 辞書ナリ

十三 レキシ 歴史ハ過タル事情ノ記録デアアル
ヒストリー 歴史ノ大略ハ人ノ
ツミオコ 罪及ビ惡ノ記録デアアル

第五十五章

一 クサ 草ノブレードハ單莖デアアル
グラス 穀物ノ葉モ亦ブレードト名
付ラル、

二 チキウ 地球ノ陰ハ夜ノ暗黒ヲナス

三 グレード ハ林間ノ徑デアアル

四 グレード ハ位ノ階級デアアル
シキ 士官ハ副長或ハ隊長ノ等

五 キク 級ヲ受得ル

五 カウエキ 交易ハ商貨ヲ賣ル、
カハ 或ハ換ル、
カサ ノ業デアアル

六 煙ハ騰ルツレハ大氣ヨリ輕クアルニ依テ

七 球ハ玉ノ如ク圓キ體デアアル

八 賄賂ソレハ裁判ヲ妨グル為メ或ハ正直ヨリ誑カス

九 為ニ與ヘラル、所ノ夫デアアル

九 笑顔ハ我輩ガ喜ンデ居ル時ヲ顯ス

第五十六章

一 我輩ハ寒冬ニ雪及ビ氷ヲ持ツ

二 小妹ハ脚絆紐ノ一對ヲ編ミアタフ

三 敢テ小童ヲ苦シムル莫レ

四 帽子商ハ毛皮及ビ子羊ノ毛ヨリ帽子ヲ造ル

五 桃ハ林檎ヨリ善ク有得ル

六 川ハ大海ニマデ流ル

七 醫師ハ疾病ヲ治療スルコトヲ勤ム

八 新シキ机ハ客室ニ立ツ

九 錫商ハ彼ノ旅スル所ニ錫器ヲ賣ルデアラフ

十 小童ハ槌ヲ以テ胡桃ヲ割リアタフ

十一 農夫ハ正午ニ於テ彼ノ晝飯ヲ食フ

十二 我ハ錫ノ杓ヲ以テ乳ヲ斟ミアタフ

十三 我輩ハ晩飯ノ為ニ麵及ビ乳ヲ食フ

十四 農夫ハ桶ニ彼ノ林檎酒ヲ納ル

十五 舟ハ大川ヲ走ル

十六 我善キ小妹ハ石板及ビ石筆ヲ持アタフ而シテ彼女

ハ彼女ノ石板ノ上ニ文字ヲ作リアタフ

十七 其怠惰ナル童子ハ甚ダ不精ナル奴デアル

十八 農夫ハ彼ノ馬上ニ彼ノ轡及ビ鞍ヲ置ク

十九 紙ハ布及ビ木綿ノ古切ヨリ製ラル

二十 蜘蛛ハ蠅ヲ捕ル為ニ巢ヲ紡ム

第五十七章

第五十八章

第五十九章

一 我輩ハ善人ノ死亡ヲ歎ク

二 若汝ハ惡キ偽計ヲナスナラバ汝ハソレヲ懺悔セ子

バナラヌ

三 我輩ハ己レノ罪ヲ見ルコトヲ好ミナサヌ

四 我ハ満開ノ薔薇花ヲ見ルコトヲ好ム

五 無益ノ兒女ハ美麗ナルモノニ付テ好デ居ル

六 月ハ満月ヨリ新月ニハ缺ルコトニ於テアル

七 犬ハ垣ヲ飛ビ越ヘアタフ

八 豊作ハ麵ヲ下直ニナスデアラフ

九 我ハ穀物ヲ刈ル人ヲ見ルコトヲ好ム

十 神ハ耳ヲ造ヘシ而シテ彼ハ聞キアタフ

十一 人ガ羊ヨリ羊毛ヲ缺ミ取ル

十二 フリントグラスハ白ク而レテ明カデアアル
一種ノ玻璃ニ最モ透明ナルモノナリ

十三 鶏ハ家及ビ小舎ノ邊リニ住ムコトヲ好ム

十四 童子ハ泣キ而シテ涙ヲ流シアタハヌカ

十五 十二月ハ一年ヲ為ス

十六 我ハ好ク熟シタル梨ヲ食フコトヲ好ム

十七 善キ童子ハ彼ノ書物ヲ裂ラヌデアラフ

大 野猪ハ林中ニ住ム

九 雲雀ハ日ヲ見ル為ニ空ニ翱翔テアラフ

八 雨ハ家ノ庇ヨリ流ル

七 日ハ大氣ヲ温メ而シテソレヲ暖カナラシム

六 老タル羊ガ鳴ク而シテ彼女ニ彼女ノ子羊ヲ呼ブ

五 我ハ汝ニ新シキ帽子ヲ以テ我ヲ接待スルコトヲ欲ス

四 椅子ハ榻子ヨリ坐ル為ニ好キ座デアアル

三 我ハ寒キ濕ツタル日ニ我大ナル表衣ヲ衣ルデアアラフ

二 我ハ川ヲ流下ル氷ヲ見タ
童子及ビ兒女ハ菓ヲ好ンデ居ル

一 日ハ東ニ昇リ而シテ西ニ没スルデアアラフ

兎 獸ハ我輩ノナス如ク說話シ及ビ思考シアタハヌ

羊 我輩ハ牛肉或ハ鷓肉ノ一片ヲ炙ル

世 兒女ハ麵ノ一片ヲ焼キアタフ

世 我輩ハ我輩ノ齒ヲ以テ我輩ノ肉ヲ啣ム

世 火ノ盛ナル炭ハ熱ヲ以テ輝ク

古今事類考 卷之八 三十一

五 土トハ城ノ胸壁ヲ廻リタル壕デアアル或ハ他ノ堅固

ナル場處ノ胸壁ヲ遠リタル壕デアアル

第六十章

第六十一章

一 肉又ハ二ツ三ツ或ハ四ツノ釵ヲ持ツ

二 我輩ハ塩水ノ中ニ塩肉ヲ儲フ

三 葡萄酒ノ房ニ蔓ノ上ニ生ル

四 煙ハ温室ノ管ヲ通り行ク

五 童子ハ熟シタル葡萄酒ヲ愛ス

六 床綱ハ長キ繩デアアル

七 胡桃ノ木及ビ石炭ハ熱キ火ヲ為デアラフ

八 門ヲ閉ヂ而シテ豚ヲ場ヨリ追出セ

九 石板ハ石デアアル而シテ家ノ屋根ヲ蓋フニ用ヒラ

ル、

十 我輩ハ鉄綱ニ石炭ヲ燃ス

十一 我ハ六月ニハ鉄ノ上ニ或ル青キ穀物ヲ持シ

英字進修 力編

十二 雜草ヲ掘出ヤ而シテ穀物ヲシテ生長セシメヨ

十三 蜂ハ巢ノ中ニ住ミ而シテ蜜ヲ集メル

Blank columns with faint bleed-through text from the reverse side.

英學進歩初編終

世界人種一覽

伊東經兒郎編輯 中本 全一冊

此書ハ世界万国ノ人種ノ根元各容貌骨格等より皮膚
頭髮の色に至るまで詳し説き且各人種ノ画圖を頭
ハ一其本然の色を賦したまは海は航するを用い
坐するら世界万国人民ノ種類を一々眼前に見る
如く實方今必讀ノ珍書なり且美麗小製したる書
かまは土産等の進物に供むべきこと最妙なり

英學進歩

伊東經兒郎譯 中本 全三冊
一名スペルリングブック直譯

此書ハ米國ウェブストル氏のスペルリングブックを直譯
し傍小元語の音假名を附したるものなり苟も七六

文字を知りしもの元書と對讀して師を求めむに獨
自小英學を入るふく自在を得るの益書をり

繪入
首書

世界開化訓蒙

伊東經兒郎輯
一名開化新徃來

全一冊

此書ハ地球上各國開化の遲速を詳論し又人民の開
化小進歩する所以を説き且童蒙の手習小使せん為
行書にて大字ヲ書し又首頭書ハ世界の國盡より
土地氣候産物及び形勢等小至る迄委しく記し且童
蒙とく倦さらしん為各國都府の景を画き顯
せり實小方今人として開化の新城は進歩せしむる
ものハ此書
小如ハな

地學便覽

伊東經兒郎輯

中本 上下二冊

此書ハ地球上大小の邦國より大東洋中最小の島嶼
小至る迄の國名及び都府埔頭等を悉く舉げ各土地
の廣狹及び人員の多少を記し且童蒙小使せん為國
名及び都名の傍各洋字を附したる書にて苟も万國
の地理及形勢等を明かせんと欲せばものハ必らん
机上小置さると得む

英和通辨

伊東經兒郎譯

中本 全三冊

此書ハ僻地遠村の師を求めしに乏しき処の人小使
る書ふして譯語を専ら賤体と主として出會別離喜怒

哀樂四季寒暖の尋省又ハ商賣飲食等凡日々必用の
英語ハ漏り如か―世小會話通辨等の譯書多し―雖
とも未だ此書の如き簡便を極めたるものか―

語學必讀

中本 全一冊

此書ハ世界各國言語の根元大要より語脈の區別を
論―又文字ノ辨を擧たる書よて方今万國の語學ハ
從吏きもの必らば讀むんバ有し―らき益書の
あり

伊東經兒郎譯

英學進步

二編 追刻

一名スペルリング直譯

官許

明治六年三月御免
明治六年五月發刻

京都

寺町通三條南

神先宗八

書林

一條通西洞院西

北村善兵衛

京 都 書 林

村上 忠兵衛
大谷 仁兵衛
藤井 孫兵衛
島林 專助
佐々木 惣四郎
福井 孝助
杉本 甚助
福井 源治郎
竹岡 文治助
田中 治兵衛
川勝 德治郎
梅村 伊兵衛
勝村 治右衛門
須磨 勘兵衛
永田 調兵衛
遠藤 平九衛門

東 京 書 林

須原 屋茂兵衛
山城 屋佐兵衛
小林 新兵衛
和泉 屋市兵衛
和泉 屋吉兵衛
岡田 屋嘉七
西京 村上出店
袋屋 龜治郎
藤岡 屋慶治郎
和泉 屋金右衛門
須原 屋伊八
椀屋 喜兵衛
紀伊 國屋源兵衛
出雲 寺萬治郎
金花 堂佐助
和泉 屋庄治郎

大 阪 書 林

敦賀 屋九兵衛
秋田 屋市兵衛
河内 屋喜兵衛
河内 屋吉兵衛
河内 屋太助
伊丹 屋善兵衛
河内 屋和助
敦賀 屋彦七
河内 屋源治郎
河内 屋勘助
河内 屋真七
河内 屋平助
近江 屋平助
河内 屋德次郎
書 籍 會 社

安土町四丁目

書林會社

本町四丁目

書籍會

諸 國 書 林

長列下関 大阪書籍分社
大津 本屋宗治郎
同 本屋伊助
彦根 本屋九兵衛
大垣 本屋慶助
笠松 玉井屋忠右衛門
越前 二文字屋安兵衛
加賀 近岡屋太兵衛
同 中村屋喜兵衛
名古屋 永樂屋東四郎
同 萬屋東平
同 菱屋藤兵衛
同 菱屋平兵衛
同 美濃屋伊六
同 伊勢 篠田伊十郎
同 藤原長平

長列下関

大阪書籍分社

